

h令和5年度 貢川小学校学校評価アンケート集計結果(貢川小学校)

1 学校評価アンケート調査対象（回答者数）について

○教職員 24名 ○児童 370名 ○保護者 281名

2 調査項目について

調査項目数 教職員・保護者：14項目 児童：13項目

貢川小学校の令和5年度の学校経営の重点とした「豊かな人間性の育成」「わかる授業の展開」「健康安全教育の推進」「学校・家庭との連携」の4点について、14の具体的項目において、教師・児童・保護者に対し同一内容となるように質問項目を工夫して実施した。

※項目⑬は児童に質問する項目として適切ではないので、教師と保護者のみの回答としている。

3 調査期間 令和5年12月4日（月）～12月22日（金）

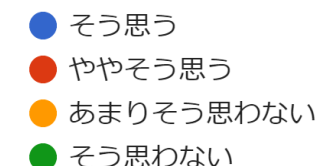
4 調査結果及び考察

※「そう思う」と「ややそう思う」と合わせた回答を「肯定的回答」、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた回答を「否定的回答」として表現した。また、基本的には、昨年度比±2ポイント以上を有意差として記載した。

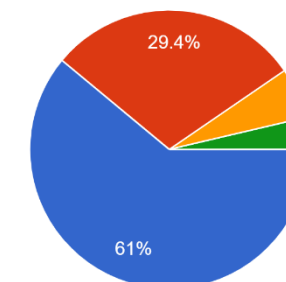
※「そう思う」「やや思う」をあわせて80パーセント以上」をA、80%未満から50%をB、50%未満をCとして評価し、来年度の改善重点項目とした。

※集計円グラフは、左より「児童」「職員」「保護者」の順で提示した。

I わかる授業の展開についての具体的項目	児童	職員	保護者
① わかる授業の展開	A	A	A
② 個に応じた指導の工夫・改善	A	A	A
③ 主体的に学習に取り組む態度の育成	A	A	A
④ 家庭学習の習慣化	A	A	A
II 豊かな人間性の育成についての具体的項目			
⑤ 道徳指導の充実	A	A	A
⑥ 生徒指導の充実	A	A	A
⑦ あいさつ運動の推進	A	A	A
⑧ よさを認め、一人一人を大切にする指導	A	A	A
⑨ 問題行動の早期発見と迅速な対応	A	A	A
III 健康安全教育の推進についての具体的項目			
⑩ 安全教育の推進	A	A	A
⑩ 環境づくりに主体的に取り組む児童の育成	A	A	A
⑪ 食教育の充実	A	A	A
IV 地域教育との連携についての具体的項目			
⑫ 家庭、関係機関との連携	A	A	A
⑬ 地域連携	B	B	B



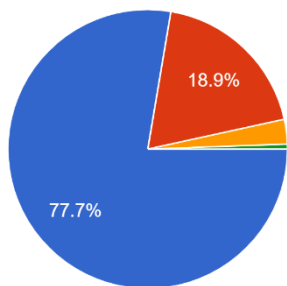
例)



I わかる授業の展開について

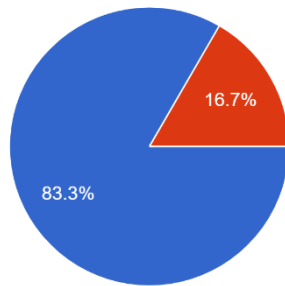
■設問1「わかる授業の展開」 設問2「個に応じた指導の工夫・改善」

1 授業はわかりやすいですか。



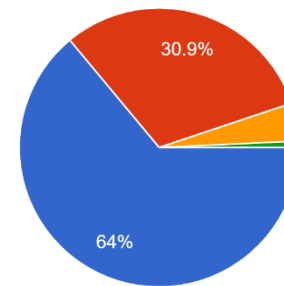
肯定的評価 : 96.6% (+0.6%)

1 わかりやすい授業に努めていますか。



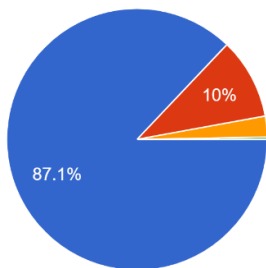
肯定的評価 : 100%

1 学校はわかりやすい授業に努めていると思いますか。



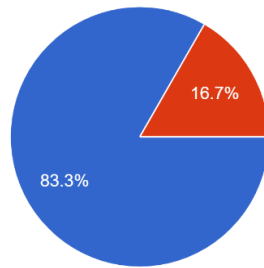
肯定的評価 : 94.9% (-0.1%)

2 先生はわからないことを丁寧に教えてくれますか。



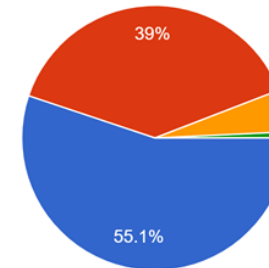
肯定的評価 97.1% (+1.1)

2 児童のわからないことなどを丁寧に指導していますか。



肯定的評価 100% (±0)

2 学校は、お子さんのわからないことなどを丁寧に教えていると思いますか。



肯定的評価 94.1% (±0)

1 わかる授業の展開にかかわる設問

※肯定的回答の占める割合は、3者ともおよそ9割

2 個に応じた指導の工夫・改善にかかわる設問

・肯定的回答の占める割合は、3者とも9割

【今年度の主な取組】

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・1人1台端末を積極的に授業で活用
 - ・個別最適な学び、協働的な学びを効果的に取り入れた授業改善
- 個に応じた指導の充実
 - ・学習指導員等による基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る個別指導
 - ・朝学習や休み時間を活用した個別指導
 - ・eライブラリ（ICT）の活用による習熟度に応じた自主的な学びの推進

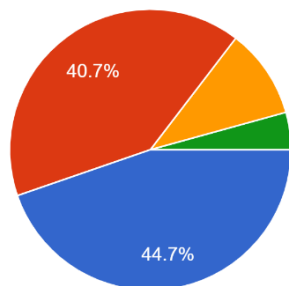


【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 学校と家庭の連携
 - ・授業参観、学級懇談、個別懇談、学年通信、連絡帳等で、授業が改善されている様子を保護者と共有化していく。
- 校内研究を通じた組織的な授業改善の取組
 - ・ICT教育効果を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組を、学校全体として計画的に推進する。
 - ・講師を招聘し、本校の取組を指導・検証していただいた。
- 個別最適な学び（個に応じた指導）の充実
 - ・「よく考え、自ら学ぶ子」の実現に向け、1人1台端末の一層の活用と教育課程の工夫を通して、個のつまずきや学びの特性に応じた指導の個別化と、個の興味関心に応える学習の個性化に取り組む。

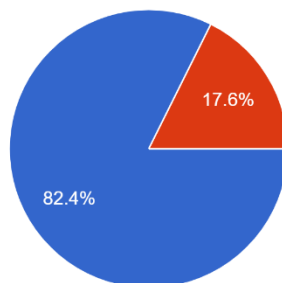
■設問3「主体的に学習に取り組む態度の育成」

3 授業では、話し合ったり考えを発表したりしていますか。



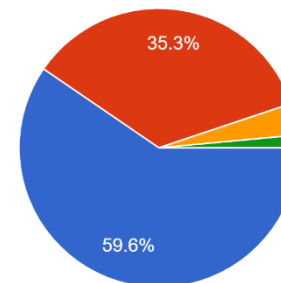
肯定的評価 85.4% (-1.6%)

3 授業において、子ども同士の学び合いや関わり合いを大切にしていますか。



肯定的評価 100% (+4%)

3 学校は、お子さんのわからないことなどを丁寧に教えていると思いますか。



肯定的評価 94.9% (-0.1%)

3 主体的に学習に取り組む態度の育成にかかわる設問

○「そう思う」職員 +5%

▲児童と職員のギャップ約15%をどのように埋めていくか。

児童51人は、令和の日本型教育の授業を実感できていない。

【今年度の主な取組】

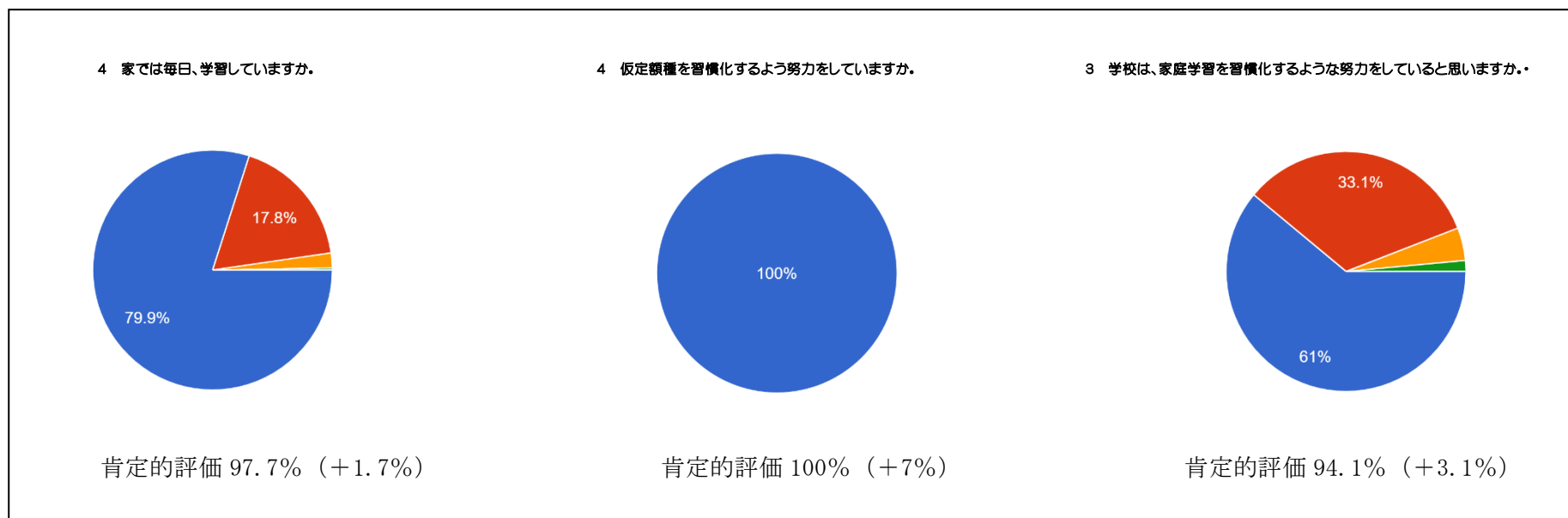
○授業中における対話の確保

- ・話し合い活動の実施（少人数、短時間、話し合いの視点を絞った活動）
- ・自分の考えを持たせた上での話し合い活動の実施
- ・1人1台端末の機能（Google フォーム、Jamboard、Classroom、画像保存等）を活用した学び合いの実施
- ・様々な意見や考えが受容される共感的な学級づくり

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 授業における話し合い活動の充実
 - ・話し合い活動の目的を児童自身が十分認識した上で話し合いに取り組むことができるよう工夫する。
- 児童の協働に向けた資質能力の育成
 - ・話し合い活動や友達との学び合いの良さを実感することができるよう、児童の日常生活における自治的・自発的な取組を大切にする。
 - ・学習感想の取組や話し合い活動を通して、メタ認知能力及び社会参画に関わる資質・能力の育成を図る。
- ICTの活用を通じた協働的な学びの推進
 - ・1人1台端末の一層の活用を通して、多様な考えに触れ、自分の考えを深めることができるよう、協働的な学びを促進していく。

■設問4「家庭学習の習慣化」



4 家庭学習の習慣化にかかわる設問
○「そう思う」3者とも増加。

【今年度の主な取組】

- 貢川小学校学力向上プロジェクト2023に基づいた組織的取組
 - ・「家庭学習の手引き」による保護者との連携
 - ・「家庭学習のあゆみ」を活用した自主的な家庭学習の習慣化の取組
 - ・高学年における自学ノートの交流を通じた意欲付け
- 1人1台端末の活用による取組
 - ・端末の持ち帰りにより、クラスルームを活用した課題の割り当て及び提出の実施
 - ・eライブラリによる課題の割り当ての実施



【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

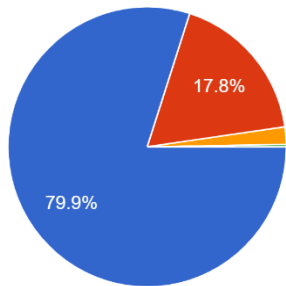
- 山梨県家庭学習習慣化促進事業を活用した取組の推進
 - ・「家庭学習のすすめ」等の啓発資料を活用し、家庭学習の必要性や効果、取組方法等について児童・保護者に対する一層の周知を図る。
- 授業と家庭学習をつなげる
 - ・授業の復習をしたり、授業で学んだことをさらに調べてみたり、授業をもとに自分で学習を進化させるような学習内容を考えさせる。
 - ・授業をもとに「今日の家庭学習でどのような学びをしたいか」、連絡帳に書かせ、家庭で取り組ませるのもよい。
- 1人1台端末の活用
 - ・1人1台端末に搭載された「eライブラリアドバンス」等の学習ソフトを活用し、自分に合ったペースで、自主的にドリル学習等に取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。



II 豊かな人間性の育成について

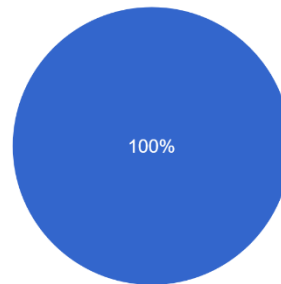
■設問5「道徳教育の充実」 設問6「生徒指導の充実」

5 友達にやさしくしていますか。



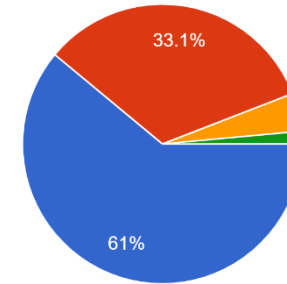
肯定的評価 97.7% (+1.7%)

5 思いやる気持ちなど豊かな心を育てるよう指導していますか。



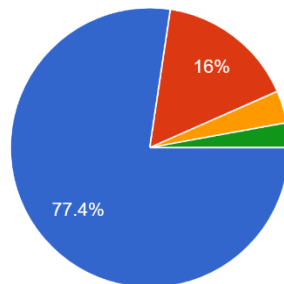
肯定的評価 100% (+7%)

5 学校は、思いやる気持ちなど豊かな心を育てるような指導をしていると思いますか



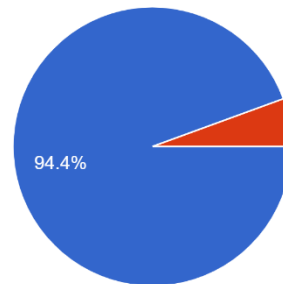
肯定的評価 94.1% (+3.1%)

5-2 相手を傷つけるような言葉、仲間はずれ、無視をしないように気をつけていますか。



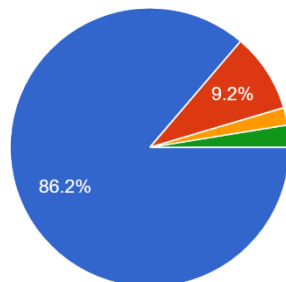
肯定評価 93.4% (-4%)

5-2 いじめの未然防止・早期発見に努めていますか。



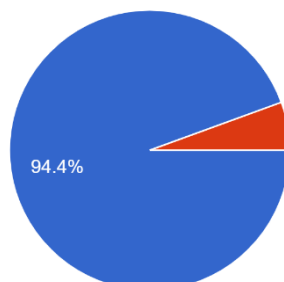
肯定評価 100%

6 先生は悪いことをしたとき、叱ってくれますか。



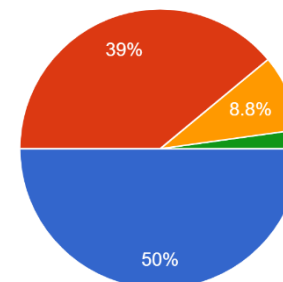
肯定的評価 95.4% (−4.6%)

6 悪い言葉悪いと、規範意識を育成するよう指導していますか。



肯定的評価 100% (±0%)

3 学校は、悪いことは悪いと、規範意識を育成するような指導をしているとお思いますか。



肯定的評価 89% (−5%)

5 道徳教育の充実にかかわる設問

○「そう思う」保護者 +3.1%

▲「そう思う」児童 −4%

※当該児童ではなく、周辺の児童の見解が−として顕在化していると感じる。

6 生徒指導の充実にかかわる設問

▲「そう思う」児童 −4.6%

保護者 −5%

※職員と児童・保護者との評価のズレを検証する必要がある。

【今年度の主な取組】

○スクールプラン「豊かな心の育成」に基づいた組織的取組

- ・「特別の教科道徳」を要とした道徳教育の充実
- ・思い遣る心と規範意識の醸成に向けた土曜参観（全学級道徳授業）の実施
- ・生徒指導上の諸課題を共有・解決するための定期的な会議の実施
- ・友達アンケート、日常のきめ細かな児童観察からのいじめや問題行動の早期発見と対応

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

○家庭、地域、学校の連携による取組の推進

- ・学級懇談、個別懇談、学校運営協議会との懇談を通して、規範意識に関わる児童の実態や育成の方向性を協議し、共通認識の中で指導を行う環境整備。
- ・PTA研修会等を通して、規範意識や自立心の醸成、生活習慣の確立等にかかわる家庭教育の果たす役割について学習の機会を設ける。
- ・学校生活の中で発生する生徒指導上の諸問題について、速やかに家庭と共有し、協働のもと解決を図る。

○道徳教育の一層の充実

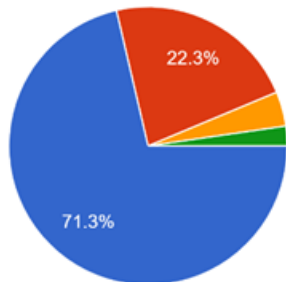
- ・道徳教育推進教師を中心に、豊かな人間性の育成に向けた重点目標を定め、年間 35 時間の特別の教科道徳の実施充実を図る。
- ・道徳教育充実の視点から体験活動や学校行事を大切にし、本校の道徳重点価値項目の実践と確実な育成を図る。

○発達支持的な生徒指導の推進

- ・生徒指導提要改定に基づき、児童の望ましい自己実現に向けて、問題発生時の生徒指導のみならず生徒指導の三機能（自己決定の場、自己存在感を与える、共感的な人間関係）を生かした授業づくり・学級経営に取り組み、児童自身の自己指導能力の育成を図る。

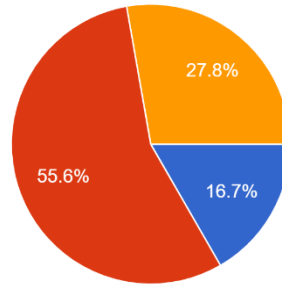
■設問7「あいさつ運動の推進」

7 友達や先生によくあいさつをしますか。



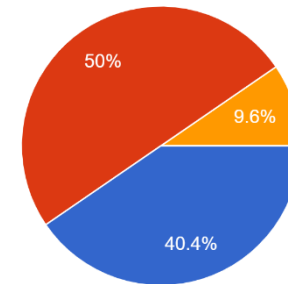
肯定的評価 93.6% (-2.4%)

7 賈川小児童は、あいさつなど社会の基本マナーが身についてきていると思いますか。



肯定的評価 83.4% (-12.4%)

7 お子さんは、あいさつなど社会の基本的マナーが身についてきていると思いますか。



肯定的評価 90.4% (+1.4%)

7 あいさつ運動の推進にかかわる設問

▲「そう思う」職員 -12.4%

※保護者と児童・職員のギャップの検証を図り、来年度への改善に繋げたい。



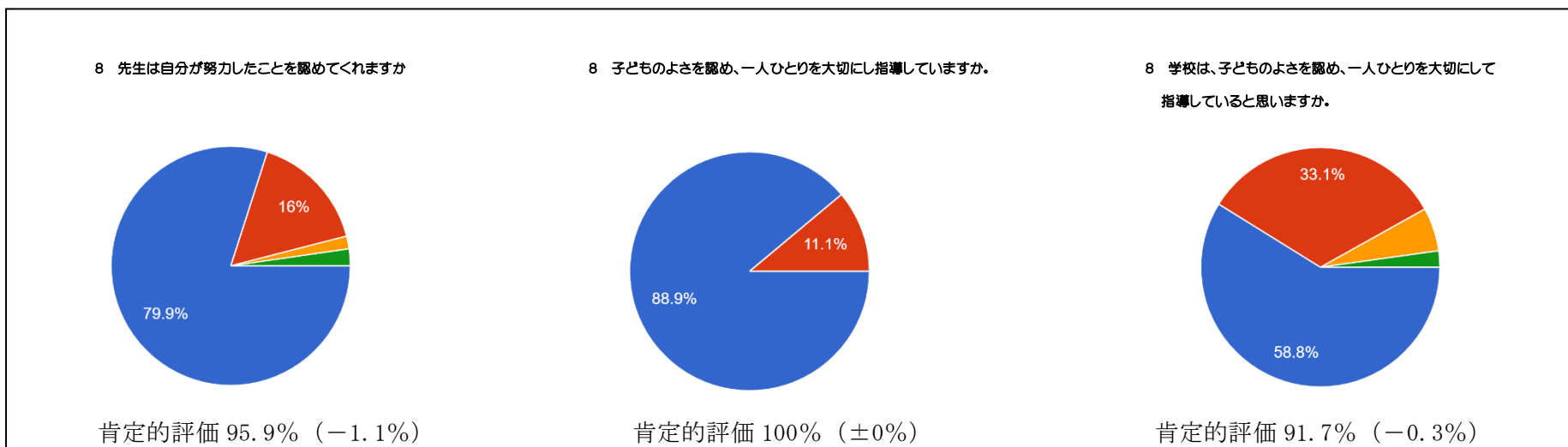
【今年度の主な取組】

- 児童自身の自主的・自発的な取組の促進
 - ・児童会による3年生以上全員参加の「朝のあいさつ運動」の取組
 - ・児童自身が学校で守るべきルールやマナーについて考える「月の生活目標」の取組
- 教職員からの率先したあいさつの実施
 - ・登校時のあいさつ指導
 - ・学校内における時と場合に応じたあいさつ指導の実施
- 児童のあいさつに対する意識の向上を図る取組の推進
 - ・あいさつをすることの必要性や効果、目的について学ぶとともに、自らのこれまでのあいさつの様子を振り返り、主体的にあいさつをしようとする意識の向上及び実践を促す授業（学級活動）の実施

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 目標の明確化
 - ・生徒指導部会・児童会の協働により、学校として育てたい挨拶の仕方や守ってほしいマナーを明確化し、児童と教職員の間で、評価規準を共有する。それを基に掲示物等を作成し、児童・教職員が共通の目標を持ちながら組織的に取組を進める。
- 家庭、地域、学校の連携による地域が一体となった取組の推進
 - ・家庭、地域、学校が、共通認識のもと交通当番・安全安心見守りの際のあいさつ指導を行うことができるよう、PTA総会・学校、学年通信等を通じて、学校としての取組や児童会活動におけるあいさつ運動の様子を紹介し、協力をお願いする。
 - ・学校運営協議会等を通じて、県の推進する「声かけ、あいさつ運動」の資料等を活用し、具体的な方法や実践例を学ぶ機会をとる。
- 児童のあいさつに対する意識の向上を図る取組の充実
 - ・児童会活動におけるあいさつ運動の活性化を促進する取組（あいさつ集会、登校時の動画視聴等）を、児童とともに考え、実行する。

■設問8「よさを認め、一人一人を大切にする指導」



8 よさを認め、一人一人を大切にしている指導にかかわる設問
○「そう思う」職員・保護者とも昨年度とほぼ変わらない。
▲「そう思わない」児童 4.1% (15人)
※15人の児童の居場所づくりを確保したい



【今年度の主な取組】

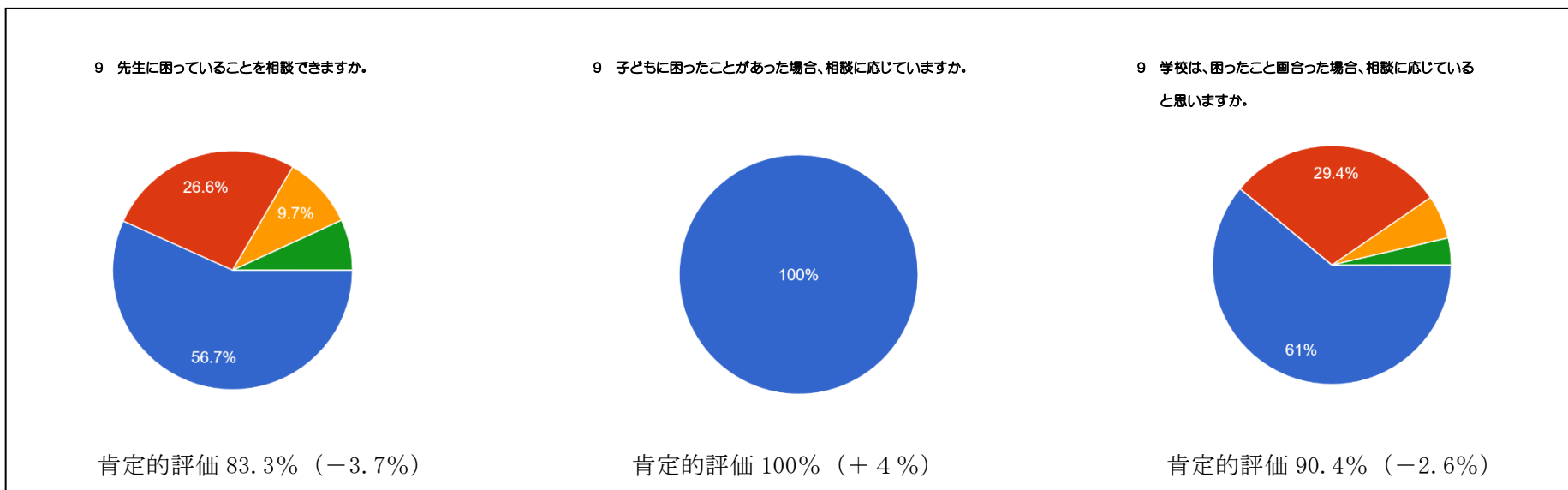
- スクールプラン「豊かな心の育成」に基づいた取組
 - ・学年教師の連携のもと、児童と教師の信頼関係の構築を基盤とした学級経営の充実
 - ・校内委員会、ケース会議等を通じた児童の情報共有と多面的理解
- 日常の教育活動を通じた取組
 - ・児童の学びの過程における、その子らしさを認め、よさを見つけ伸ばすための支援・声かけ
 - ・日常生活における一人一人の努力を見つけ、励ますとともに、児童相互がお互いに認め合えるようにする活動（ヒーロープロジェクト、帰りの会でお礼を言う取組、教師による提出物へのコメント等）
- 生徒指導の三機能を生かした授業づくりの推進
 - ・「自己決定の場を与える」、「自己存在感を与える」、「共感的人間関係を育む」という生徒指導の三機能を生かした授業改善に取り組み、一人一人が自己を認め、自己有用感を育むことのできる授業づくりを推進

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 児童のよさや可能性にかかわる多面的な見とり
 - ・児童に寄り添った支援の継続をはかり、一人ひとりの児童の居場所を確保する。
 - ・学年、学年間（ブロック）、交換授業等を通して児童の情報を共有し、個別のシートに蓄積する。また、キャリア・パスポートのコメント欄を利用し、児童のよさや可能性について重点的に記述を行い、児童・保護者へのフィードバックを促進する。
- 家庭との連携
 - ・学校生活において見取った児童のよさや可能性について、日常的な連絡（欠席時の連絡等）等を通して保護者に伝え、共同の歩調で支援に当たること
 - ・その子らしさや個性の伸長を図る。
 - ・欠席しがちな児童への配慮。3日連続欠席した場合は、家庭訪問実施。（不登校未然防止の視点から）



■設問9「問題行動の早期発見と迅速な対応」



9 問題行動の早期発見と迅速な対応にかかわる設問
 ○「そう思う」職員 100%
 ▲「そう思わない」児童 16.7%(61人)
 ▲「そう思わない」保護者 9.6%(26人)
 ※職員の評価と児童・保護者の評価のギャップ。
 先生に相談できないでいる61人の児童について、丁寧に考えていく必要があるのではないか。



【今年度の主な取組】

- 生徒指導部会を核とした組織的な取組
 - ・スクールカウンセラーを活用した問題行動等への組織的な早期対応
 - ・各学期末に実施する友達アンケートの分析による、「いじめ」をはじめとする問題行動の早期発見・早期対応及び解決。

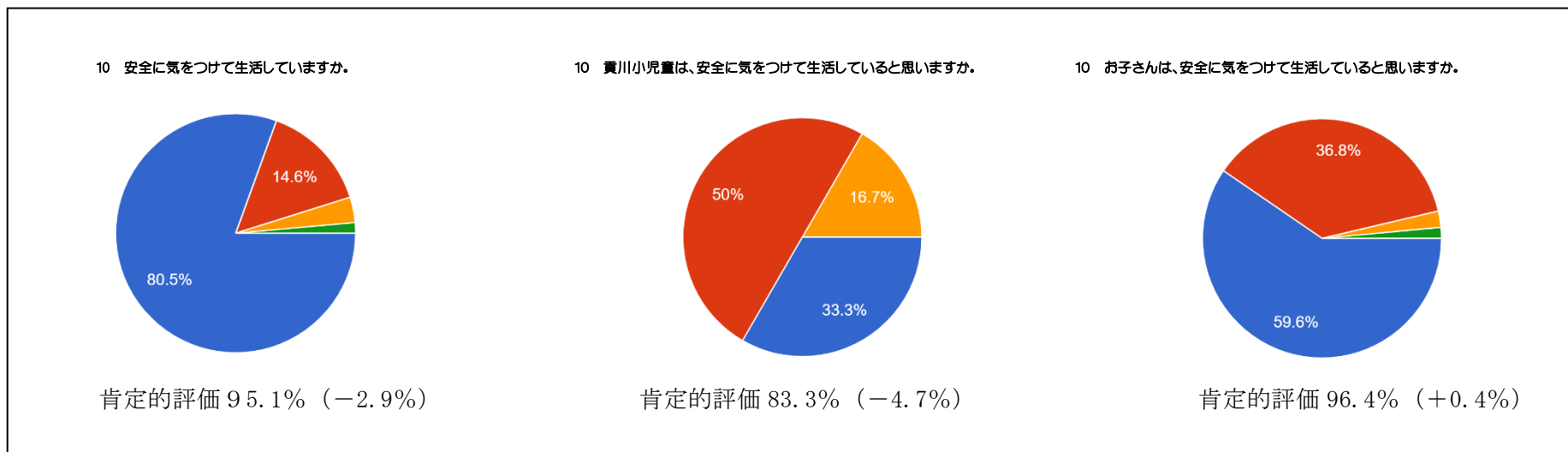
- 日常の綿密な見とり
 - ・観察、作文における記述、日常のコミュニケーション等を通して児童の内面の理解に努め、通常と変わった様子があれば声かけを行うとともに、必要に応じて保護者へ連絡をとり、情報共有を行う。
- 家庭・地域・関係機関との連携
 - ・家庭、地域（見守りパトロール、民生児童委員、青少年育成推進協議会等）、関係機関（児童相談所、市子育て支援課、警察等）との情報共有を随時行い、問題行動の早期発見及び未然防止に向けて連携した取組を実施。

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 児童と教師の信頼関係の構築を基盤とした学級経営の充実
 - ・児童が教師に何でも話せる信頼関係づくりに取り組む。児童に対する確かな内面の理解に基づいて児童の話に耳を傾け、悩みに寄り添う姿勢を保ちながらともに解決策を探り、信頼関係の構築につなげる。
- 校内の相談体制の周知
 - ・教育上の家庭や児童の教育に関する悩み事の相談は、担任だけでなく、スクールカウンセラー、管理職、養護教諭、教務、学年主任と、内容に応じて様々な対応が可能であることを、学校便り・学年通信・懇談等を通じて周知する。

III 健康安全教育の推進について

■設問10「安全教育の推進」



10 安全教育の推進にかかわる設問

▲「そう思う」児童 -2.9%

職員 -4.7%

※「自分の命は自分で守る」という力がどれだけ養成されているか、予告なし避難訓練時の振り返りで検証していきたい。



【今年度の主な取組】

○児童の安全確保に関わる資質・能力の向上を図る取組

- ・自助、共助、公助の視点より、安全教育計画により組織的な取組を行った。特に、「自分の命は自分で守る」ことを、各避難訓練では確認した。
- ・地震、火災、不審者、ミサイル、水害を想定した年間8回の計画的な避難訓練の実施
- ・交通事故にあうことの多い1年生と、道路で自転車に乗り始める3年生を対象とした交通安全教室の実施
- ・夏季休業前の全校を対象とした交通安全教室及び防犯教室の実施（甲府市、甲府警察署との連携）
- ・学校保健計画に基づいた、児童の安全確保に関わる資質・能力を高めるための安全教育・保健指導の実施

○生徒指導部会を核とした組織的な取組

- ・長期休業前の防犯、交通安全、規則正しい生活等にかかわる「きまり」の提示及び指導
- ・登下校路の安全確保や安全な休み時間の過ごし方に関わる、発達段階に応じた指導

○教職員による安全管理の取組

- ・児童の生活上の危険を除去するための安全点検の実施（月1回）。点検結果を踏まえ必要に応じた営繕・改善
- ・危機管理マニュアルに基づいた安全管理の実施

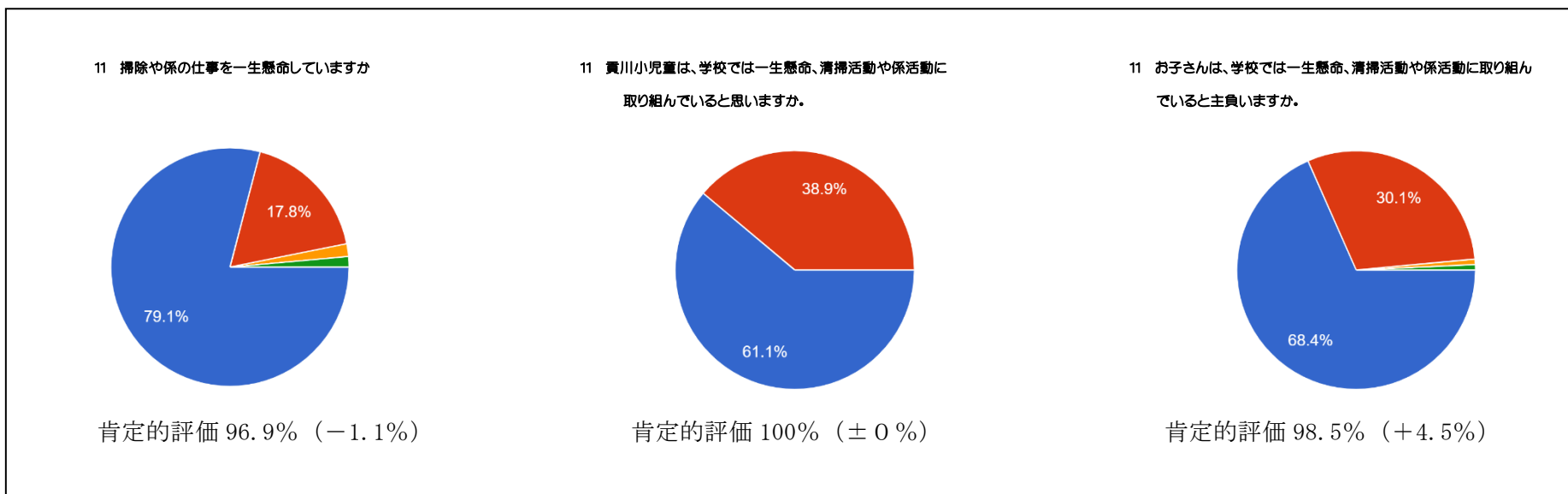
【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

○学校の安全管理、児童の安全教育を両輪とした学校安全計画を確実に履行し安全な学校環境を保障するとともに、一つ一つの取組を改善しながら着実に実効化し、自分の身を自分で守ることのできる児童の資質・能力の育成を図る。

○家庭との連携

- ・学校保健員会等を通じて、病気やけがの予防に関わる情報発信を行ったり、安心メールを活用した防犯・交通安全上の啓発を行ったりする等、家庭と連携した取組を推進する。

■設問11「環境づくりに主体的に取り組む児童の育成」



11 環境づくりに主体的に取り組む児童の育成にかかわる設問
○「そう思う」保護者 +4.5%



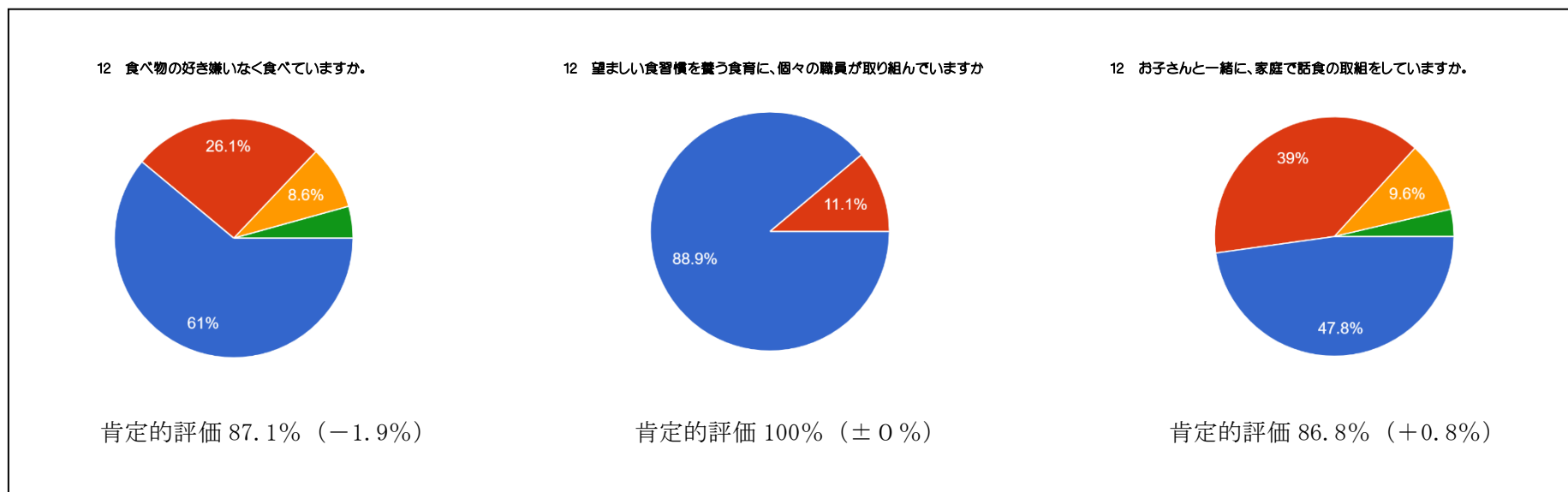
【今年度の主な取組】

- 児童自身の自主的・自発的な取組
 - ・児童会による取組（無言そうじ・くつそろえ等）、環境委員会による無言清掃を推進する取組
 - ・月の生活目標に基づいた各学級の具体的な取組
- 各学級における児童の自己有用感を育む取組
 - ・児童の意欲や創意工夫を大切に自発的・自治的な係活動の活性化
 - ・教師も清掃に取り組むことで児童のロールモデルになるとともに、児童の様子を見とり地道な取組を認め励まし、習慣化を図る。
- 授業を通じた勤労に関わる資質能力を育む取組
 - ・道徳「勤労・公共の精神」において、働くことよさや意義について考える学習を通して、勤労に関わる内面的資質の育成を図る。
 - ・学級活動、勤労生産・奉仕的行事（大掃除等）を通して、自分にできることを考え実行する活動を行い、学校を大切にしたり進んで学校生活に参画したりしようとする資質能力の育成を図る。

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 児童の内面的な資質能力の育成を図る継続的な取組
 - ・単に外形的な指導にとどまらず、児童自身が愛校心や所属感、働くことの意義についての理解を深め、主体的に働くことができるよう道徳・特別活動を中心に授業の充実を図るとともに、教師が児童の良きロールモデルとなるよう、師弟同行の取組を徹底する。
- 家庭との連携
 - ・PTA 奉仕作業など、教職員と保護者が協働する機会を通じて勤労・公共の精神に関わる学校文化を形成するとともに、家庭生活における家族の一員としての児童の役割について、学校・保護者が考える場を設ける（学級懇談会・心の教育懇談会の活用等）。

■設問12「食教育の充実」



12 食教育の充実にかかわる設問
※昨年度と同様の結果

【今年度の主な取組】

- スクールプラン「健康安全教育の推進」に基づいた組織的取組
 - ・学級活動、給食の時間、家庭科（高学年）を通じた、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるための食教育の実施

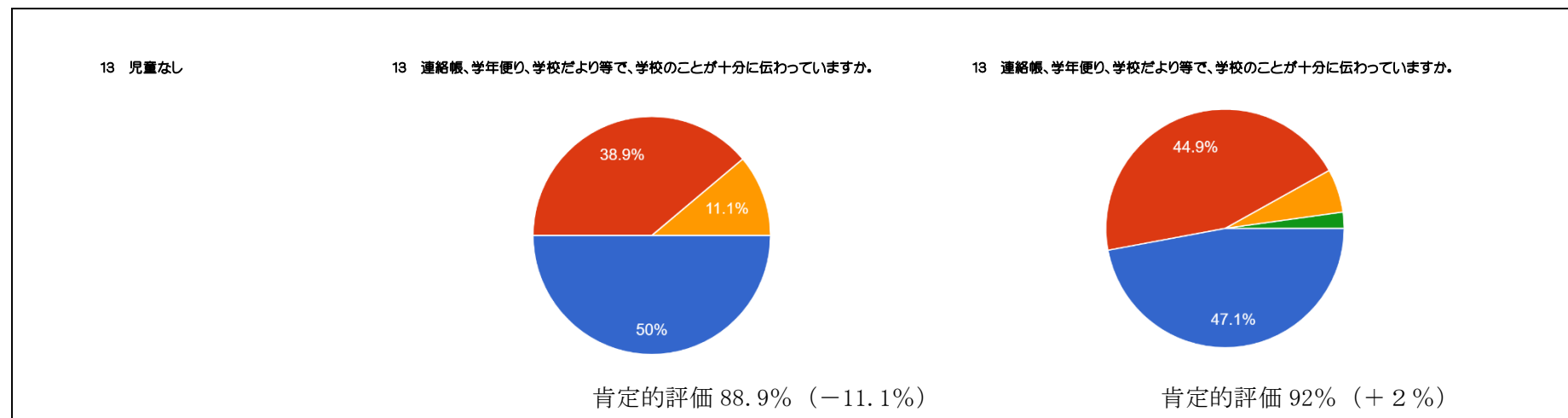
- ・栄養教諭と担任の連携による食育授業の実施
- 児童自身の自主的・自発的な取組
 - ・給食委員会による給食週間の取組。毎日の昼の放送を利用した献立・郷土料理の紹介等による食への興味関心を高める活動
- 食育一校一実践運動の取組
 - ・栄養バランスのとれた食を通じた心身の健やかな成長を目指して、1人1台端末を用いた給食一口メモの配信・家庭との連携による「話食の日」等の実施

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 各学年の実態に応じた食に関する指導の計画的な実施
 - ・各学年における食育上の課題を適切に把握し、学期に1回程度、それぞれの課題に応じた食に関する指導を教育課程に位置づけ、栄養教諭との連携のもと実施する。
- SDGsとの関連を意識した食教育の実施
 - ・持続可能な社会の担い手を育てる視点から、低学年における飼育・栽培活動、高学年における食料生産・食品加工、全学年の体験活動等を見直し、自分の身近にある食の問題（給食の残食）への気づきと変容に向けた行動を促す。
- 食育一校一実践運動の推進
 - ・年度の児童の実態を踏まえ目標を重点化し、学校全体としての組織的な取組をさらに推進する。

IV 地域教育との連携について

■設問13「家庭、関連機関との連携」



13 家庭、関係機関との連携にかかわる設問

▲「そう思う」職員 ー11, 1%

※十分に伝わっていないと感じた場面、伝わっていないことにより、相互の食い違い等、具体的場面を出し合い、検証し、来年度への改善に繋げたい。

【今年度の主な取組】

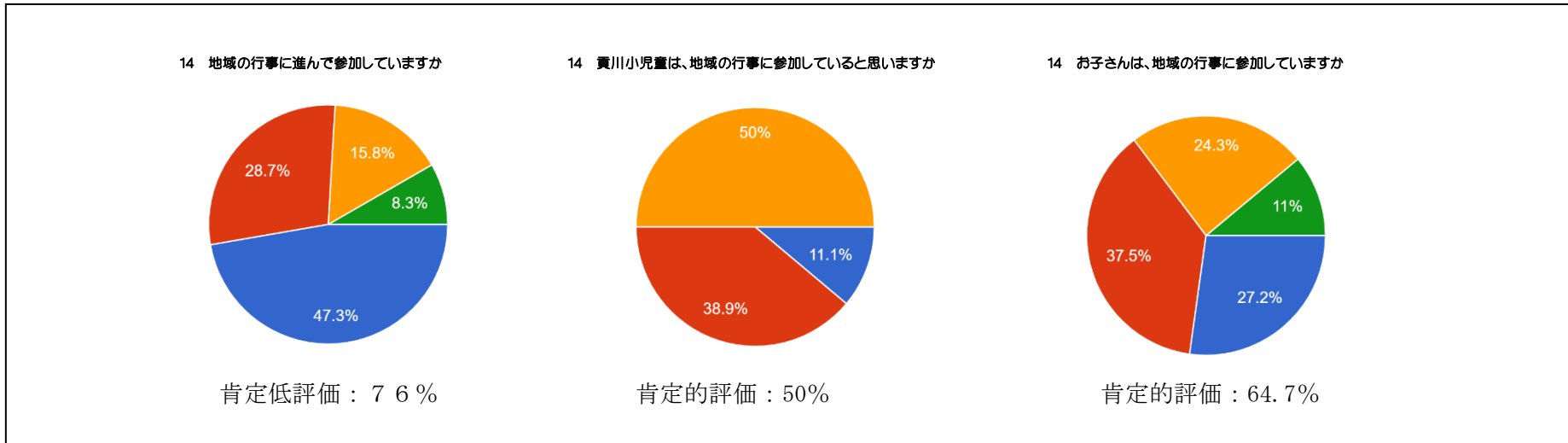
- 学校における児童の生活の様子や教育活動を家庭へ伝える取組
 - ・学校だより「みつぎっ子」、各学年通信の定期的な発行及び内容の充実
 - ・安心メールを活用した家庭との連絡体制の確立
 - ・学校ホームページを活用した各学年の活動紹介
 - ・年2回の個別懇談の実施
- 地域との連携
 - ・貢川地区自治会連合会を通じた学校だより、行事予定、学校からの依頼文等の配布
 - ・学校運営協議会設置
- PTAとの連携
 - ・PTA新聞「みつぎ」の発行、PTA研修部による研修部だよりの発行及びHPでの研修内容紹介

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 地域との連携の充実に向けた取組
 - ・学校運営協議会をはじめとする地域と学校が会する機会を利用して、学校の教育活動の様子や児童のよさ、課題等について伝えるとともに「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて、チーム学校実現を図る
- コロナ5類引き下げを踏まえた学校行事の再開
 - ・コロナ禍で中止していた保護者も交えた学校行事（運動会、みつぎっ子まつり、学年・学級懇談等）について、開催可能な方策を検討し、保護者参加の意義を明確にしつつ必要性に応じて再開する。



■設問14「地域との連携」



14 地域との連携にかかわる設問

※コロナ5類引き下げになり、少しずつ地域行事も復活しつつあったが、感染症流行の様子を見ながらの開催であったことで、全てがコロナ前に戻ったわけではない。今後、学校運営協議会と連携をとりながら、地域との連携について考えていきたい。

【今年度の主な取組】

- 学校運営協議会を窓口「に」、教育ボランティアの実施が可能になった。
 - ・5年総合的な学習の時間（田植え・稲刈り）
 - ・高学年家庭科ミシン授業の教育ボランティア依頼

【調査結果を踏まえた今後の取組の重点】

- 学校運営協議会を窓口「に」、地域と王にある学校として、学校教育活動への参画を養成していきたい。
- 学校運営協議会と、確認をしながら児童にも参加を呼びかけてきたい。
 - 放課後教室の開催・三代ふれあい・地域法視作業・夏休み育成会事業

V 来年度に向けて学校としての取組

■設問3「主体的に取り組む多度の育成」について。

児童回答そう思わない14%(実数51人)に、楽しい授業わかる授業を実感させるために、どのように授業改善をおこなうか。

- ・身の回りの事象を題材として扱い、自分事として授業を受けることができるようにしていく。
- ・少人数での話し合いや、グループでの課題への取り組みを仕組み一人一人が学習に前向きに取り組めるようにする。
- ・タブレットを活用して問題について考えさせる。具体的なイメージがわくような資料提示をして授業を行う。児童が興味を持つような課題を設定する。などの工夫を行う。
- ・一人ひとりから丁寧に聞き取り、小さな目標を立てて、実現させいく。
- ・課題設定と見通しをもたせる授業や単元のスタートに心がける。振り返りを大切に授業や単元の終わり方の工夫をする(できかぎり家庭学習、実生活、他教科につながる働きかけをする)。目的意識と相手意識に気づかせる働きかけをする。などができたらよいと思います。
- ・わかりやすい学習課題、おもしろそうな学習課題の提示。一人一人の考えをもたせる時間の確保や自分考えが持っているような支援が大切だと思う。
- ・Chromebook等を活用して、自分の考えを表現させ自信をもって話し合い活動に参加していけるようにする。
- ・①自信を持って発言できるような学級づくりや授業づくり。教室は間違えるところであるという意識を子供たちに持ってもらうような声かけをし、子供たちが安心して発言できる雰囲気を作っていく。②ICT機器の活用。間違ってもよいというクラスづくりや授業づくりができていたとしても挙手することに対して抵抗のある児童はいる。Googleフォームやスプレッドシート等を活用することにより、挙手しなくても意見を交換したり発表したりする環境を整える。
- ・担任1人では担いきれないと思います。教科担任制を取り入れていくのはどうか。他校で実施している学校があります。
- ・単元の指導計画の中に個別最適な学びを取り入れる。課題(テーマ)に対する自分の考えをデザインしながら表現する学習を取り入れる。

■設問8「良さを認め、一人一人を大切に指導」について。

教師の指導について、保護者もそれを実感している。しかし、児童回答そう思わない4.1%(実数15人)の居場所を確保するため、指導の工夫改善をどのように行うか。

- ・一人一人頑張ったことをしっかりと言葉にして褒める。評価するときのコメントを肯定的な意見にしていく。
- ・子どもと会話し共有・共感しながら意識して声掛けを増やす。
- ・教師からだけでなく、友達からも長所を認めてもらえるような学級づくりを行う。
- ・児童一人一人に向き合う時間の確保。教師は児童を認めているつもりでも、そこに信頼関係が無いとなかなか伝わるのが難しい。児童との日常的な会話も含めて、教師と児童の信頼関係を構築していく必要がある。ただし多忙化と言われる昨今、ゆっくり児童と向き合っている時間もままならないという事実もある。多忙化改善や家庭との連携など、多角的に取り組む必要がある。
- ・折りにつけ、前向きな言葉をかける。学年便りでいいところを伝える。
- ・児童観察をしっかり行う。できたね、がんばったね等日常的に声をかける。
- ・学級づくりに重きを置く。一人ひとりが自分の学習を大切に思うような指導(ICT活用による複線化の授業・机間指導や日常のコミュニケーションの重視)ができればよいと思います。

- ・授業中ふらふらと出て行ってしまふ児童について、授業とは直接関係なくても児童が興味を持てるような活動ができる居場所を考える。一人でいても落ち着くような場所作り、クールダウンができる空間作りなどが必要。(空き教室を利用したいが本校では少ないのでどこにするか考える余地あり)
- ・1対1対応を求めている児童なので、人員の確保が必要。

■設問9「問題行動の早期発見と指導」について。

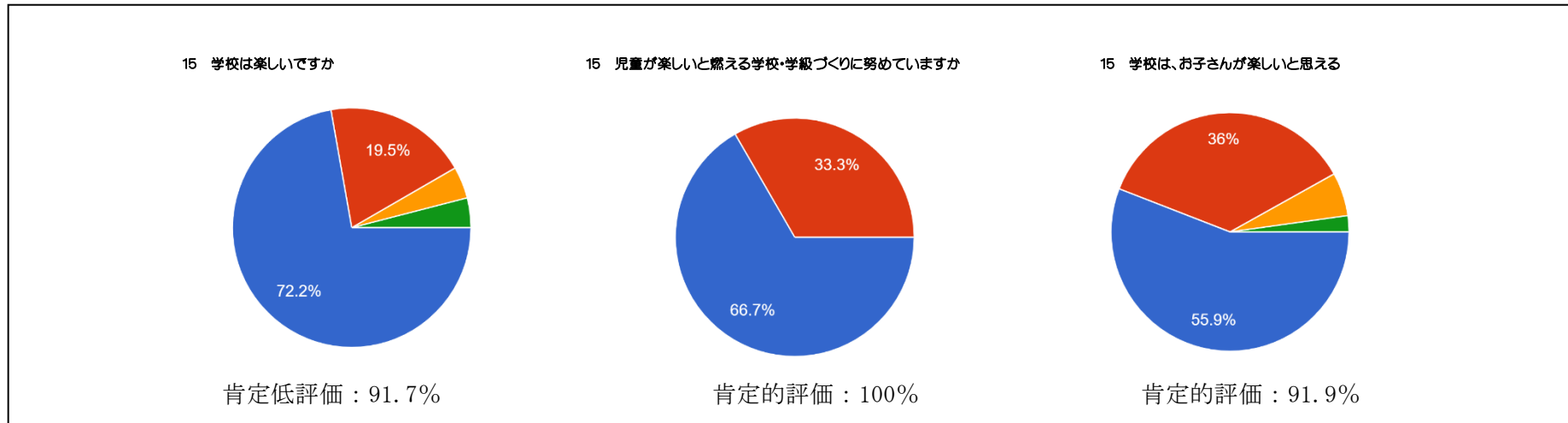
教師は100%の回答。しかし、困ったことを相談できないと回答している児童 16.7%(61人)、相談できているとは思わない保護者 9.6%(26人)。本年度のスクールプラン「子どもの心によりそい ともに歩む」を実現するため、どのように改善していくか。

- ・保護者との連携を密に取り児童に合った実践をしていく。
- ・子どもが日頃から話しやすい関係をつくり情報を得て指導に生かす。
- ・休み時間等に子どもに話しかけ、会話するよう心がける。連絡帳に子どもの頑張りを定期的書きこみ、保護者との連絡ツールとして最大限活用する。
- ・児童のちょっとした変化やサインに気づけるよう、日常的に児童とふれあい、声かけを行う。保護者には、学校には様々な立場の先生や SC・SSW など外部機関のかたもいるので、何か困ったことがあるときには誰に相談してもよいということを学校だより等でお知らせしていく。
- ・子供たちの様子をよく観察し、話をきく。些細なことでも保護者に連絡し、情報交換を行う。信頼関係を築くことが大切である。また、SC などとも連携して子供の心に寄り添っていく。
- ・子供理解を徹底する。自分自身が成長しようと思わせるような働きかけ。(挨拶・声掛け・称賛・対話)ができればよいと思います。
- ・困り感を持っている児童に対して、どの教員も同じように声かけができることが必要。見て見ぬふり、知らん顔、担任任せ、来ないでなどの排除はいけない。自分には関係ないという考えを持たず、全職員で全児童を指導するという考えが必要。些細なことでも児童の話を聞いてあげることで児童は安心する。知らない子であっても話しかけてきたら話を聞いてあげることも必要。注意するばかりでなく褒めてあげることで子どもは喜ぶ。話を聞いてくれるということだけでも児童は教師を信用し安心できると思う。排除の論理ではなくインクルーシブな考えで対応することが必要。
- ・どの児童にも、教師から積極的に声をかける姿勢を心がける。問題がなくても教師から話しかける。
- ・日頃から児童と信頼関係を築けるように努力していく。子どもが相談しやすい時間と空間をつくる必要がある。そのために、教師(担任)がゆとりをもてるようにしていく。

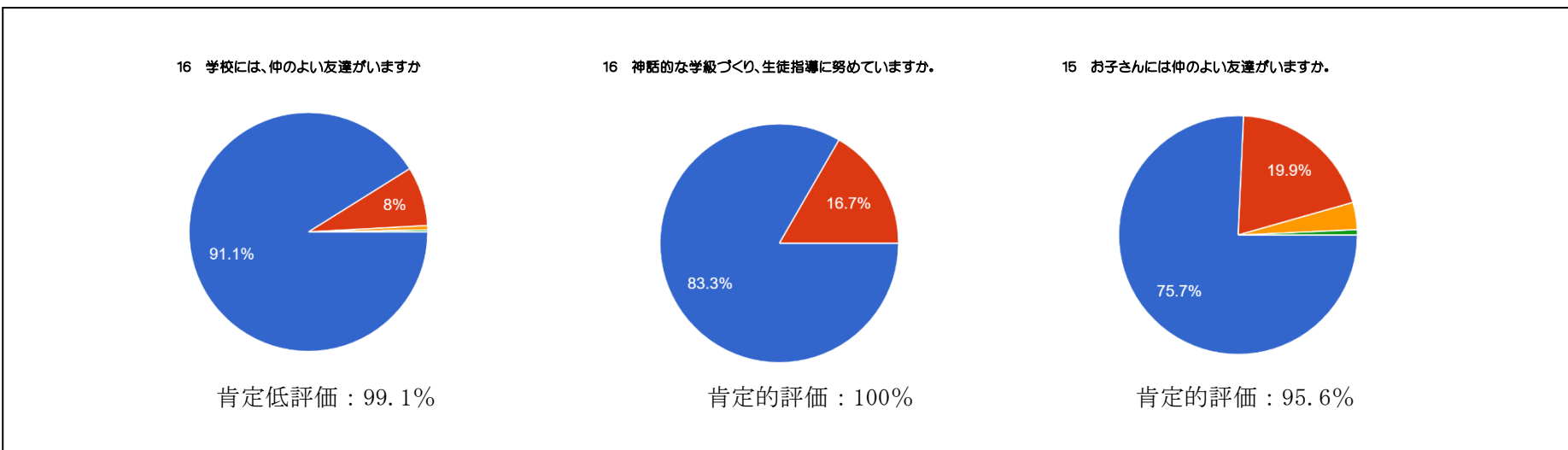


VI 学級づくり (参考資料)

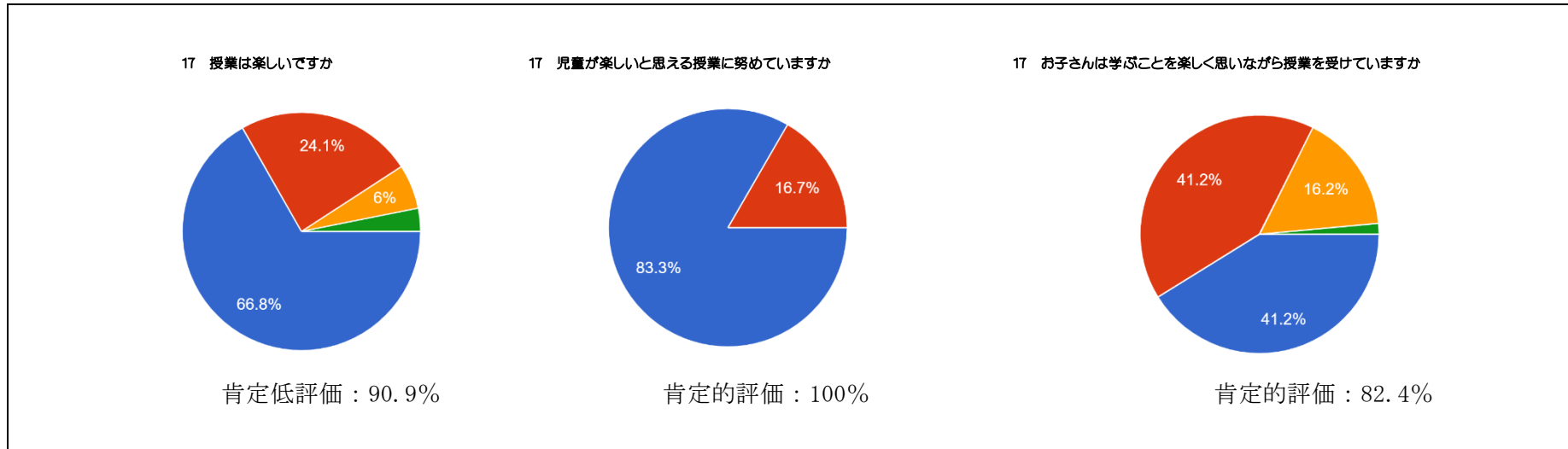
■設問15「学級づくり」



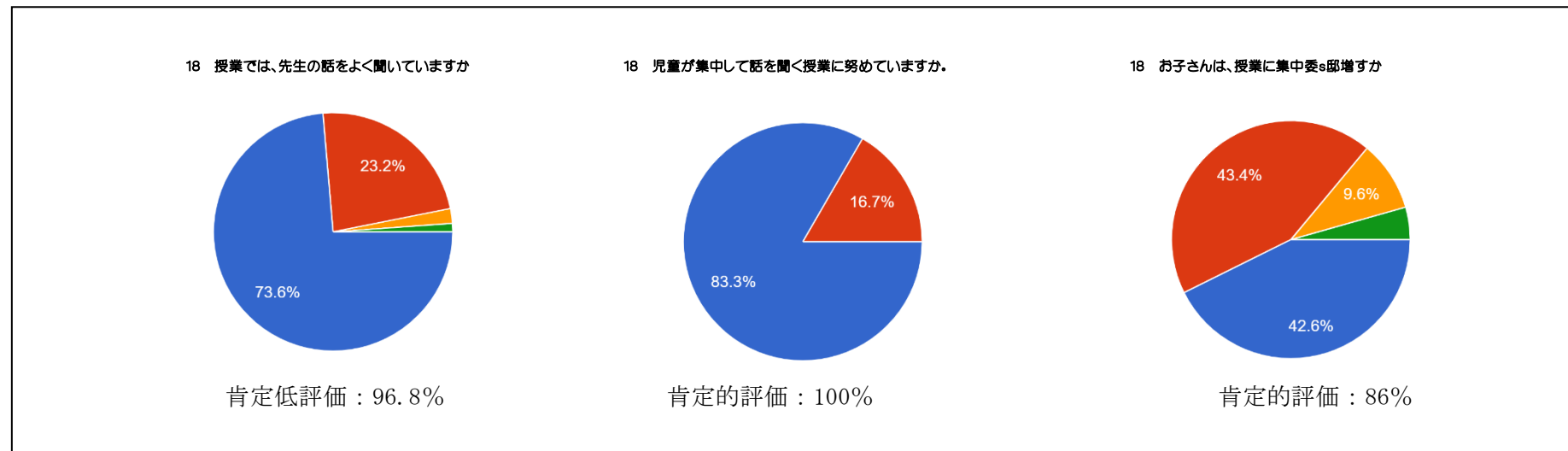
■設問16「仲間づくり」



■設問17「授業づくり」

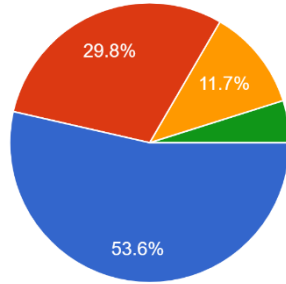


■設問18「学習規律」



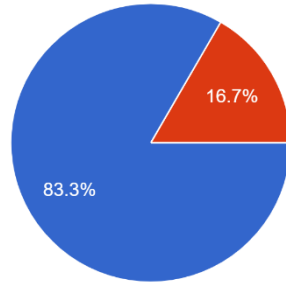
■設問19「誰一人取り残すことのない学校づくり」

19 授業でわからないことを先生に質問できますか



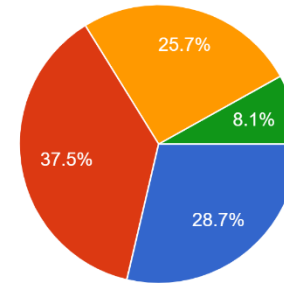
肯定低評価：83.4%

19 児童からわからないことを質問できる授業に努めていますか。



肯定的評価：100%

19 お子さんは、授業でわからないことを先生に質問できていると思いますか。



肯定的評価：66.2%



1 日時 令和6年2月22日(木)

2 場所 貢川小学校会議室

3 参加者

【学校運営協議会委員】

前貢川教育推進会議会長	小野 良高 様 (CS 委員長)
自治会連合会会長	望月 尚 様 (CS 副委員長)
女性部連合会・愛育会会長	小宮山 幸恵 様
連合親寿会会長	中島 浩 様
社会福祉協議会会長	松田 丞司 様
福祉推進員協議会会長	小笠原 百合江 様
民生児童委員協議会会長	保坂 公雄 様
青少年育成推進協議会会長	嶋田 和雄 様
貢川幼稚園 園長	深澤 真美 様
警察署員 貢川交番	末木 大輔 様
貢川小PTA会長	伊藤 和正 様

【貢川小学校】

校長 小山田 貴一
 教頭 弦間 文
 教務主任 杉本 洋

委員から寄せられた意見

- 家庭教育の中で行き届かない、食に関する部分、規範意識の形成に関する部分など、きめ細かい学校教育に取り組んでいただいておりますが大変ありがたい。家庭でも可能な限り連携しながら教育に取り組むたいと考えているので、引き続き先生方のご指導をお願いしたい。
- 食教育について、学校での指導の取組を家庭へ還元し、家庭でも取り組んでいただく必要がある。本来、食に関する指導は家庭の教育による部分が大きいので、家庭への啓発の取組を進めていただきたい。
- 児童・教職員の評価はほぼ同じような割合を示しているが、保護者の評価はそれと乖離している部分がある。学校の取組がなかなか伝わらずに否定的回答につながっていることも考えられるため、今でもやっていただいているが、学校便り・学年通信等を活用してより子どもの姿が伝わるよう工夫してほしい。
- 豊かな心の育成について、保護者の評価が低下しているとのまとめがあったが、保護者が学校に求めるものとして、やはり確かな学力の育成に重点が置かれているのではないか。道徳的なことはある程度家庭に任せていく必要があり、どのような心を育てていきたいのか家庭と話し合い、共有化する必要もあるのではないか。
- いじめについて、先生方の日常の見とり・粘り強い指導の成果が表れている。先生方の取組に感謝をしている。引き続き組織的な取組をお願いしたい。
- 保護者、児童、教職員の回答にある程度の乖離はあるものの、全体として90%以上の肯定的評価が得られたのは大きな成果である。学校経営の確かさを示しており、今後も改善を含め着実な学校教育の推進をお願いしたい。

MEMO